

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	二俣 泉
主な担当科目	音楽芸術運営特別演習 ②,音楽療法テクニックⅣ,音楽療法テクニックⅥ,音楽療法の理論と技法論Ⅱ/音楽療法の理論と技法論特殊講義Ⅱ,音楽療法概説/音楽療法概説特殊講義,音楽療法各論Ⅰ/音楽療法各論特殊講義Ⅰ,音楽療法技能特別演習Ⅰ(障がい児),音楽療法指導研究,音楽療法上級実習Ⅱ(障がい児) A,施設実習Ⅰ,施設実習Ⅲ_音楽療法C,卒業論文(原著講読含む)_音楽療法D,博士音楽療法特講Ⅱ,博士研究指導,博士研究方法論特講
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	1)学生の論文作成能力を向上させるための取り組みを行う。 2)担任を担当する学生に対しては、個別面談を複数回実施する。また、欠席が目立つ学生については頻回に面談を行ない(原則として必ず専任教員2名で実施)、本人の状態を把握し、事務局とも連携しつつ指導を実施する。
2024年の教育に関する自己評価	1)2024年の1月～3月、学部3年生に卒論の研究計画に関する頻回の指導を行った結果、4年次開始時に4年生全員の研究テーマが確定し、全員が順調に卒論執筆ができた。卒論に関する適切な指導ができたと考えている。 2)1年生に、欠席が目立つ学生が複数いたが、個別面談の結果出席状況が改善した。3年生で欠席が目立つ学生への面談を行なった結果、他コースへの進路変更への意思を固められ、退学を防止できた。適切な指導ができたと考えている。
2024年のFD活動に関する自己評価	・音楽療法分科会FDでは、二俣が個々の学生の特徴を踏まえた授業運用の方法(心理学の学派の一つである、応用行動分析学に基づくアプローチ)について、分科会の教員と共有した(根拠資料「教員と学生が、共にハッピーに授業に取り組むための工夫」を参照)。
授業改善のために取り入れた研修内容	・上記の方法(授業内における目標とする行動を設定し、それが学生から自発されるために、行動の手がかり・行動に対する手応え・興味をひくための動機づけの工夫)を実施した。その結果、授業内における学生が意見を自発的・積極的に発するようになり、授業内での学生相互の議論も活発になった。

2024 年度(前期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

特別支援教育論担当教員

教員コード:3268 教員名:広津侑実子

教員コード:2915 教員名:二俣泉

教員コード:2902 教員名:北村篤司

1)アンケート結果に対する所見

本科目は、4 月に集中講義で実施するため、アンケートの回答が集まりにくく、昨年度は回答者がいなかった。今年度は、UNIPA で回答するようになったことも良かったのか、10 人回答が集まった。

各質問の結果について全科目の平均値と比べると、大きな差はなかったが、Q8 の教育目標の達成度については、3.64 で、平均をかなり上回っていた。概ね、興味や関心を持って授業に臨み、教育目標を達成し、授業に満足しているという回答が多かったが、Q5 の興味や関心を持って出席しているという質問に「思わない」という回答もあり、学生によって差があることも感じられた。

2)要望への対応・改善方策

記述回答では、「介護体験で聾学校に行った時、特別支援教育論で学んだ手話や一人一人の子供への理解が実践的に活かすことができた」という回答があった。受講者全員が介護等体験に参加するわけではないが、特別支援学校での介護等体験と関連が深く、現場での体験を経てより学びを深められると思われる。今後も、学生が介護等体験とのつながりを意識して学びを深められるようにしていきたい。

3)今後の課題

来年度は 100 分授業×7 回になるため、それに合わせ、授業の構成を調整する必要がある。

また、集中講義の日程と授業アンケート実施時期が離れているので、授業アンケートの回答率を高めるよう声かけも続けたい。

以 上

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2915 教員名:二俣 泉

1)アンケート結果に対する所見

今回の授業アンケート結果の対象となった科目(音楽療法テクニックⅣ、施設実習Ⅰ、音楽療法テクニックⅥ)については、いずれもアンケートの項目の項目毎の数値は類似していた。また、いずれも総合満足度は比較的高い点数であったため、授業内容については適切なものであったと考えられる。

2)要望への対応・改善方策

「音楽療法テクニックⅣ」のアンケートの自由記述では「褒めつつ細かい指導があったために、褒められたところは自信につながり、指導があったところは練習の際のポイントになった」とのコメントがあった。指導の内容は概ね適切であったと思われる。

他の授業についても、授業内容について改善すべき点についての特段の要望はなかったため、前年度までの内容を踏まえつつ、さらに充実した授業にすべく努力したいと考えている。

3)今後の課題

先にも述べたが、今回のアンケート結果では、授業内容については概ね適切と考えられたため、前年度の授業内容・指導方法を踏まえつつ、さらに充実した授業にすべく尽力したい。

以 上